

現校旗と旧校旗 (栗山高校 70 年史より)

現在の栗山高校の校旗

校 旗

栗山実科高等女学校時の校旗



旧校旗 (昭和九年二月二十一日制定)

地色の紫は女子の清純と情熱を表わし、形状は第七師団二十五聯帯旗による。

竿冠は撫子の花の三面体、旗図は中央に北極星を根立に配し、清楚でなお香り高いすずらんの双華を置き、「御鏡」白地の中に「學」の一字を宿している。

右下隅に、師団杉原美代太郎氏の校名揮毫がある。

校旗は、「学校の生命」と時の学校長の女子教育にかける意気込みが、この一旗にはっきりと現れている。

寄贈は栗山婦人会で、価格は百四十六円五十銭、札幌三越製、入魂式は栗山神社において二代社掌（神官）久保愛三氏によって執り行われた。

現校旗 (昭和三十三年三月一日制定)

現校旗は校章の制定以来、「校章入りの校旗を」の声が、生徒職員より起こり、PTA・同窓会などの諸費を合わせて調整せられた。

地色えんじ色は若人の息吹を象徴し、以後本校のスクールカラーとなる。

中央の校章はすべて金糸の刺繍取りで、栗の五葉は崩黄色、真中の撫子の花は白光色、その中に「高」の一字を真赤で重ねて刺繍している。

雄渾な隸書の「北海道栗山高等学校」の金文字を竿側に配し、旗縁り三辺は三段結紐型付の金房で、その内側は二条の金線囲み、竿冠は校章の三面体に金リボンを併わせ、紐通しをもって竿を結ぶ。